

平成30年度備前保健所運営協議会議事概要

日時：平成30年7月18日(水)

場所：おかやま西川原プラザ

出席者：委員19名 事務局15名

<発言要旨>

議事1) 備前保健所運営の概況

2) 意見交換、質疑応答

委員：真備町の災害に毎日50人ずつボランティアで派遣しております。

そこで注意が必要なことを教えていただきたいと思います。

事務局：熱中症予防として、ボランティアの従事時間を制限したり、こまめに休憩を入れる、こまめに水分をとることが大事です。また釘などを踏んでけがをすることもありますので、けがをしないような注意が必要かと思います。

委員：感染症対策として有効な手段がありますか。

事務局：飲用でない水が蛇口から出ている様な場合はそのまま飲まないことが大事で、ボランティアで行く限りには、自分のものは自分で準備して水はしっかり持って行くということです。また、軍手やマスクを着用することが必要かと思います。感染症に関しては口から入れるものに気をつけていただくことです。今のところ、現場で流行っているという感染症の情報は受けておりませんが、食物は暖かいところに長時間置かず、その日のうちに食べることや、トイレの後の手洗いが大事ですが、できない場合は、ウェットティッシュ等の使い捨てのものを持って行っていただくことかと思います。

委員：救急医療体制の整備ということでは、在宅も踏まえ、施設でも救急対応は高齢者に対しては欠かせないですが、それに対し、地域で完結していきたいのが医療者ですが、なかなかそういうわけにはいかず、後方支援病院も手助けしていかなければいけないということで、是非とも、救急対応を消防、警察、医療、介護を踏まえて、これからも検討していただければと思います。

事務局：消防と救急医療機関の実務者会議を脳卒中について行ったときに、情報をうまく消防にキャッチしていただいて、適切な医療機関に適切に搬送することでかなり時間が短縮できていたり、応需率が良くなっていますので、そのあたりを共有しな

がら何が課題か、何ができるかというところを共有していきたいと思っております。

委員：精神科のアウトリーチ事業に関して、若者が結婚しないということを踏まえ、両親が亡くなっていくことを踏まえ、このような対策はますます必要になってくると思います。

事務局：地域の民生委員さんが把握していらっしゃるのは、40～50代の引きこもりの方や、疾患がなくても引きこもっていらっしゃる方については、出かける場や、就労といったことがあるかと思いますが、精神科的疾患を持ちながら、どこにもつながっていない方に関しては、精神保健相談やアウトリーチチーム等で対応します。また、中々コンタクトをとることが難しい場合があるので、地域の方々のご協力を得ながら、ケアマネやヘルパーが問題把握している事例もありますので、そういった所を大事に支援していきたいと思っております。

委員：救急医療体制ですが、脳卒中や心筋梗塞には連携パスが進んでおりますが、それ以外の対応がこれからまだまだ必要ではないかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

委員：引きこもりというのか、家にいらっしゃって、暴力を振るいだした方が、病院に行って入院させてほしいと言っても、今の症状では入院できないということで、入院させてもらえず、家の方は困っていらっしゃいますが、どういうことなのでしょうか。

事務局：医療で症状が軽くなるようであれば、精神科からの投薬があったり、アウトリーチで治療導入に向けての対応や、事例検討をさせていただきますが、親子間等限定されている世界の中で暴力が出るという事例が結構多いように思います。その場合、当事者ではなく家族の支援に入ることによって介入していくことで、関係者とも連携しながらできることを探しながら、アウトリーチチームで医療の必要性も評価しながら関わっていくしかないかと思います。そして、暴力を振るう時のきっかけやエピソードがあると思います。家庭で積み重なったものがあると思うので、そのあたりを解きほぐすかわりが時間をかけて必要だと思いますが、周りの人やボランティアでは難しいと思うので、保健師や関係者が入って家族と一緒に考えて取り組んでいければと思います。

委員：本人の人権が今非常に求められているところで、自分に対する暴力も含めて、確かにそれだけでは入院にならないところがあります。基準が難しいところはありませんが、ベースに精神科の何らかの障害があって、色々な症状が出ているという所で、精神科の病気が想定できるか、治療に対する反応がどうか等を総合して入院を決めないと、特に強制的な入院ということに関しては、人権が重んじられておりますので、先程の親子関係ということであれば入院は難しいですし、やはり個々の人権を尊重する姿勢を忘れてはいけないと思います。

委員：昨年度、玉野市ではフッ素塗布をやっていないという委員からのご指摘を受け、平成30年度から行政の理解を得てフッ素塗布をする事業を始めることができました。今後とも頑張っていきたいと思います。

委員：母子保健対策として、赤磐市では今年から妊産婦の歯周病検診を始めました。これは0才からの口腔疾患の予防について、行政の方に理解をさせていただいたので非常に良かったと思います。口腔内の疾患は親からの感染によるものだと考えられています。検診にはお母さんだけで来られますが、岡山市ではパートナーと一緒に検診が受けられ、それはいいことだと思いますので、備前保健所管内でもそのような検診を広めていただき、長く続けていただければと思います。また、未来のパパとママを育てる出前講座は、高校生を対象としていますが、その時点から口の中が将来のあなたの子どもにかかわりがあるということを是非広めていただけたらと思います。

委員：民泊に関して、玉野市で1件ということですが、海外からの旅行者を対象としているのでしょうか。

事務局：宿泊される方を限定はしていません。外国人の方を主体にということはありません。